



コスタリカ国草の根技術協力

「生活改善アプローチによる農村開発モデル事業活動報告」

No. 7

2016.6.3

## ～身の回りから出来ること～

NPO 法人イフパット 研究員 小林沙羅  
(現地調整員/生活改善ファシリテーター)

プロジェクト対象地域のサンタリタ村では、既に第六回目のワークショップが実施されました。今まで様々な参加型手法を使って課題と地域資源の発掘から始まり、生活改善活動の洗い出し、分類までをしました。まずは参加している女性達一人一人が身の回りから出来ることを始め達成感を感じるために、お金をかけずに個人/家庭レベルで出来る活動について話し合ってきました。今回のワークショップでは、女性達が活動を選び活動計画を立てました。計画の立て方はシンプルで、①活動テーマ：私の〇〇を改善する、②目的：何を改善するか、③活動：何をするか、④活動に必要なもの：何を投入するか、の4つの項目について考えます。

この日のワークショップには、農牧省の生活改善実証プロジェクトの他チームであるコパノというところから5人のファシリテーターが見学に来ました。生活改善研修をもうすぐ終え、実際に集落で活動を始めようとしているチームで、どのようにワークショップを実施するか学びに来たのです。女性達は突然の外からの見学者に緊張した様子。慣れない計画作りに試行錯誤していましたが、次のような活動計画を立てました。

・イサベル：健康を改善するために、蚊が多く発生している自宅敷地を清掃する、水溜の水を捨てる

- ・ マルジェリス：家を改善するために、まず外にあるカマドに屋根をつける
- ・ シェルリー：家周りの緑地を綺麗にするために、ゴミを収集する
- ・ カティ：健康を改善するために、食習慣を見直し、早く就寝し、運動をする
- ・ マヌエラ：健康を改善するために、日と時間を設定し運動をする
- ・ ジェセニア：家を改善するために、床と壁を綺麗にする
- ・ マリア：家を改善するために、屋根のペンキを塗り替える

健康や住居環境は、ずっと話し合ってきたテーマであり女性達にとって一番身近で、手を付けやすい課題です。また、当初はプロジェクトからの援助を期待していましたが、6回のワークショップを経て、活動に必要な投入として外部からの資金や物資に言及する女性はいませんでした。皆、自身の意思、働き、努力を投入として挙げており、少しの意欲で始められる活動を計画することが出来ました。コバノのファシリテーターチームが来たことで、生活改善ワークショップに参加している感想を聞かれ、「日本の女性達は洗濯をする姿勢から生活を変えていったことを知り、自分たちも時間の使い方などを振り返るようになった」など振り返りをする事が出来ました。また、外部投入に依存しない意識が少しずつ生まれてきていることが感じられました。

フェリーに乗ってコバノに帰るチームを無事見送り、村から帰途につく途中市役所と保健省のファシリテーター達が「今日の活動は良かったけれど、少しずれていた」と話し始めました。女性達の活動の中には、投入は自分自身の意欲と言いながらお金がかかる活動を計画しているものがあつたのです。特に住居改善についてペンキや屋根など買わなくてはならない資材が入っていました。私自身も、資材をどうするのか女性達に聞いたところ、自分で貯金をして、または何かを売ってお金を捻出するから大丈夫と言っていました。女性達が自分たちで考えた計画を否定はしませんでした。実現可能なお金がかかる活動の前に出来ることから始めることが主旨だったことをファシリテーターと確認しました。ファシリテーター達としては、今回は見学者がいて例えば家周りが汚いことを露呈したくないために、恥と見栄から清掃活動より資材を用いた住居改善を選んだ女性があつたのではないかということでした。今後は家庭訪問や、次のワークショップでの話し合いを通して少しの軌道修正をしていこうということになりました。



自分の改善計画を発表しました



外部資源に頼らなくても目標達成出来ることを新聞を使ったアイスブレイキングで学びます